

# 欧米言語文化学会関係の出版物

本会が関係する企画出版物を新しい順にまとめてみました。

## 『多次元のトピカ—英米の言語と文化—』 (2021)

植月 恵一郎、奥井 裕、野村 忠央、大森 夕夏、加藤 良浩、近藤 直樹、藤原 愛 編  
(金星堂 2021年12月刊 A5判 上製 636 pp.)



本体価格 6,000 円 ISBN978-4-7647-1212-6

欧米言語文化学会 30 周年記念出版。英語圏文学・英語学・英語教育学を中心に、比較文学や西洋美術史などを専門とする研究者たちの中から、35 篇の多彩な論考が寄せられた。

はじめに	小林 英美 iii
<b>第 I 部 特別寄稿</b>	
マーガレット・ドラブルに会う	井内 雄四郎 2
<b>第 II 部 イギリス文学・文化</b>	
「リシダス」における“海辺の守護霊”	大西 章夫 6
奴隷制とブロードサイド・バラッド	鎌田 明子 21
公共図書館の起源——ノッティンガム・ブロムリー・ハウスの場合——	小林 英美 38
『ドラキュラ』の中の超越的存在 ——ヴァン・ヘルシング教授による説明と物語の展開——	吉田 一穂 53
大砲と道徳——『バーバラ少佐』におけるハイブリッドな精神——	松本 望希 73

異端糺明のための小問題集——T. S. エリオット『異神を追ひて』の「補遺」について——	岡田 俊之輔 85
ウィリアム・サマセット・モーム「約束」——翻訳と解説——	奥井 裕 100
レインコートとカナリア色のシャツ——E. M. フォスター作「アーサー・スナッチフォールド」に おける衣服について——	高坂 徳子 118

### 第Ⅲ部 ジョージ・オーウェルの諸相

ジョージ・オーウェル『ビルマの日々』における主人公フローリーの拳銃自殺の理由と意義	高橋 一馬 136
マイケル・アーレンとジョージ・オーウェル	近藤 直樹 151
小説家:ジョージ・オーウェル——エッセイ——	大石 健太郎 165
イギリス料理——未出版エッセイ訳(イラスト付)——	横山 ミヰ子 181

### 第Ⅳ部 比較文学・文化

ラフカディオ・ハーンの「ある保守主義者」と位牌——“the household shrine”とは何か——	横山 孝一 200
異文化体験——夏目漱石の場合——	甲田 亜樹 218
ディケンズと内田魯庵	水野 隆之 239
「書く」という行為——ロバート・ヘリックと小林多喜二の政治性と芸術性——	古河 美喜子 258
旧日本兵の寄せ書き日の丸返還への国際姉妹都市交流からの協力	山内 圭 270

### 第Ⅴ部 アメリカ文学・文化

ホーソーンの初期短編にみる主題の萌芽 ——「ロジャー・マルヴィンの埋葬」と「僕の親戚モーリノー少佐」を中心に——	大野 里枝 290
ポーの環境恐怖——『アッシャー家の崩壊』解説——	植月 恵一郎 311
「ほんもの」にみるジェイムズの自己言及性とイラストレーションの変遷	中村 善雄 328
「檻」の両義性——ヘンリー・ジェイムズと女性電報手——	松浦 恵美 341
ジェイソン・コンプソンの人物像	加藤 良浩 358
「火の中の輪」におけるゴシック的描写によって示される逆説	加藤 良浩 379
作家論・創作論としての伝記的フィクション——シンシア・オジックの「口述筆記」——	大森 夕夏 390
『イージー・ライダー』の文化的遺産——アメリカン・ニューシネマの精神文化——	中垣 恒太郎 409

**第 VI 部 英語学と英語教育学**

日本における家庭内バイリンガル教育の可能性——継続を妨げる要因を探る——

今井 光子 446

小学校英語教育における英語学の知見の重要性と日英語の類似点・共通点と相違点の  
解説 佐藤 亮輔 464

子供の初期英語表現の非階層性——格の適格性と言語進化から—— 関田 誠 479

文型論における 0' と C' の扱いをめぐって 野村 忠央 499

英語史の授業における古英語の講読例

——449 年のアングロサクソン人のブリテン島侵略—— 野村 忠央 517

母語習得過程から考える外国語学習 藤原 愛 535

販売数上位の TOEIC 対策単語集と新 JACET 8000 におけるレベル別単語一致度の比較

松本 恵美子 547

音声学習を強化した英語授業の実践と提案

森景 真紀 559

**資料編**

欧米言語文化学会役員一覧 580

年次大会・例会研究発表の記録 奥井 裕・野村 忠央 581

歴代編集委員 604

欧米言語文化学会 30 年の歩み 植月 恵一郎・奥井 裕 607

おわりに 植月 恵一郎 619

執筆者紹介 623

索引 631

# 『学問的知見を英語教育に活かす—理論と実践—』(2019)

野村 忠央、女鹿 喜治、鴫崎 敏彦、川崎 修一、奥井 裕 編

(金星堂、2019年9月刊 A5判上製 440頁)



本体価格 4,500 円 ISBN978-4-7647-1190-7

欧米言語文化学会〈連続シンポジウム〉「学問的知見を英語教育に活かす」に基づく研究成果を紹介。英語学・英語教育学・英米文学の興味深い知見を含む論文と教育実践報告、そして、斯界の第一人者による特別寄稿を含む 26 編を掲載。豊かな授業内容の一助となることを目指す。

はしがき 川崎 修一

## 第Ⅰ部 特別寄稿

- 第 1 章 認知科学者と英語教師のやりとり—「学問的知見を英語教育に活かす」ということについて— 大津由紀雄・末岡 敏明
- 第 2 章 英語の動詞句削除と副詞の修飾ターゲット 高見 健一
- 第 3 章 文法研究から学習英文法へ 千葉 修司
- 第 4 章 英文解釈と生成文法 外池 滋生
- 第 5 章 伝統的な 5 文型から 9 文型への拡大、そして 1 文型への還元 外池 滋生
- 第 6 章 目的語関係節が使えるための指導案 遊佐 典昭

## 第Ⅱ部 英語学

- 第 7 章 複数主語＋単数補語 川崎 修一

- 第 8 章 数量詞の遊離現象について 小堂 俊孝  
第 9 章 名詞用法の不定詞節について 佐藤 亮輔  
第 10 章 英語史の知見を活かした効果的な発問例 鴫崎 敏彦  
第 11 章 混乱の多い英語学の専門用語、知っておくべき英語学の専門用語(1) 野村 忠央  
第 12 章 混乱の多い英語学の専門用語、知っておくべき英語学の専門用語(2) 野村 忠央  
第 13 章 語順が表す含意(1)—不定詞節における否定語順について 野村 忠央  
第 14 章 語順が表す含意(2)—仮定法現在節における否定語順について 野村 忠央  
第 15 章 Were to が前提節に現れる条件文の特徴とその帰結節が直説法現在となる場合  
女鹿 喜治  
第 16 章 日英語の音韻論・音声学的比較に基づいた音声指導 森景 真紀

### 第 III 部 英語教育学・英米文学・実践研究

- 第 17 章 言語学習とモチベーション: 英語授業における英語履歴書作成活動 岩本 典子  
第 18 章 語学教育で文学を—引用句辞典の活用を中心に 植月 恵一郎  
第 19 章 一般教養英語の教材としての文学—『ドラキュラ』を使用して 江藤 あさじ  
第 20 章 英語教員の役割について 江幡(山田)真貴子  
第 21 章 シェイクスピアの講読で英語・文化・人間を教える 遠藤 花子  
第 22 章 英文学作品(小説)をどう教えるか(総論) 奥井 裕  
第 23 章 語学の授業で英文学作品(小説)をどう教えるか(授業報告編) 奥井 裕  
第 24 章 英語でひらく他言語への扉 藤原 愛  
第 25 章 グレイディッド・リーダーを授業の+αに 横山 孝一  
第 26 章 英語講読授業の指導例—ヴァージニア・ウルフの「遺贈品」“Legacy”を通じて話法  
を学ぶ 吉田 えりか

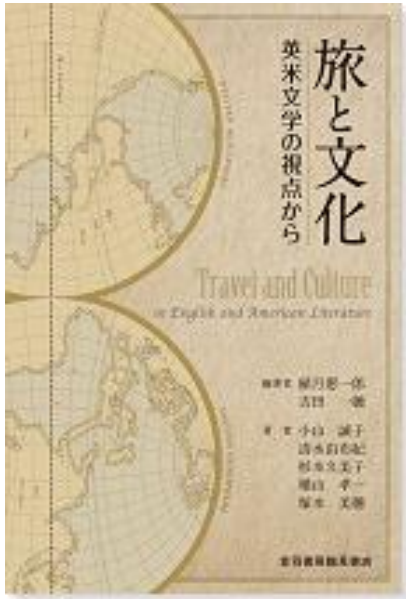
(参考資料) 本シンポジウムの歩み 野村 忠央

本書のルーツ—故山田七恵さんを偲ぶ 奥井 裕

あとがき 鴫崎 敏彦

## 『旅と文化—英米文学の視点から—』（2018）

植月 恵一郎、吉田 一穂 編（音羽書房鶴見書店 2018年4月刊 四六判上製 172頁）



本体価格 1,800 円 ISBN978-4-7553-0411-8

シェイクスピア、ポー、ディケンズ、E.M.フォースター、現代のカリブ系作家ジュノ・ディアスの作品から「旅」を考える 5 論考、ヴィクトリア朝時代の旅行記などを参照に「日本の視覚的イメージの形成」を探る論考、ハーンの「古い日本発見の旅」についての論考の計七本の論考を集める。

まえがき 植月 恵一郎

『間違いの喜劇』をめぐる三つの「旅」 小山 誠子

観光案内としての『ウィサヒコンの朝』とエコロジー 植月 恵一郎

『リトル・ドリット』——エイミー・ドリットとグランド・ツアー 吉田 一穂

ヴィクトリア朝における日本の視覚的イメージ 清水 由布紀

ラフカディオ・ハーンの「古い日本」発見の旅 ——「ある保守主義者」とは誰か 横山 孝一

ガイドブック『アレクサンドリア』にみるE・M・フォースターの変化と思想の旅路 杉本 久美子

オスカーの死への旅 ——『オスカー・ワオの短く凄まじい人生』からの考察 塚本 美穂

あとがき 吉田 一穂

# 『読者ネットワークの拡大と文学環境の変化—19 世紀

## 以降にみる英米出版事情—』 (2017)

小林英美、中垣恒太郎 編 (音羽書房鶴見書店 2017 年 5 月刊 A5 判 320 頁)



本体価格 3,000 円 2017 年 5 月刊 ISBN978-4-7553-0297-8

読者層の拡大に伴う 19 世紀以降の出版事情、文学あるいは作家をめぐる環境の変化をイギリス編とアメリカ編に分けて編集した。イギリス編は 19 世紀初頭の予約購読形式出版の事例研究からヴァージニア・ウルフまでの 7 章とコラムからなり、アメリカ編ではポーからナボコフまでの 4 章とコラムからなる。各章の末尾には読み方の新しい試みとして執筆者相互による各論述に対する意見と応答をのせた。

はしがき 小林 英美

### 第 I 部 イギリス編

はじめに 小林 英美

予約購読形式出版詩集への定期刊行物書評—スコットランド詩人グラント夫人の事例研究

小林 英美——コメントと応答(コメント者 三原 穂)

コックニー詩派と出版社—十九世紀前半イギリスの出版事情 藤原 雅子

——コメントと応答(コメント者 金澤 淳子)

「ウェイヴァリー現象」—越境するテキストと十九世紀読者層の創出 (および忘却)

松井 優子——コメントと応答(コメント者 河原 真也)

十九世紀における小説読者の拡大とディケンズ 水野 隆之

——コメントと応答(コメント者 中垣 恒太郎)

【コラム】十九世紀の英米での「海賊版」 園田 暁子

イングランドにおける大衆読者層の形成と拡大 閑田 朋子

——コメントと応答(コメント者 池末 陽子)

読者を啓発するジョイス—『ダブリンの市民』に描かれたアイルランド社会の病理 河原 真也

——コメントと応答(コメント者 松井 優子)

拡大する読者とヴァージニア・ウルフの「普通の読者」—ウルフのジャーナリズムと評論「斜塔」 吉田 えりか——コメントと応答(コメント者 山内 圭)

## 第Ⅱ部 アメリカ編

はじめに 中垣 恒太郎

鉄筆のカーマガジニスト・ポーの軌跡を辿る 池末 陽子

——コメントと応答(コメント者 閑田 朋子)

国民作家マーク・トウェインの生成とアメリカ出版ビジネスの成長—予約出版と知的財産権の概念整備 中垣 恒太郎——コメントと応答(コメント者 水野 隆之)

エミリー・ディキンソンと「読者」ネットワーク—南北戦争時に「送られた」詩と「送られなかった」詩 金澤 淳子——コメントと応答(コメント者 藤原 雅子)

書物の流離譚—『ロリータ』の大西洋横断的出版ネットワーク 後藤 篤——コメントと応答(コメント者 河原 真也)

【コラム】一九二〇年代〈ハーレム・ルネッサンス〉のアフリカ系アメリカ人作家たちと出版事情 君塚 淳一

【コラム】アメリカの地域読書運動について 山内 圭

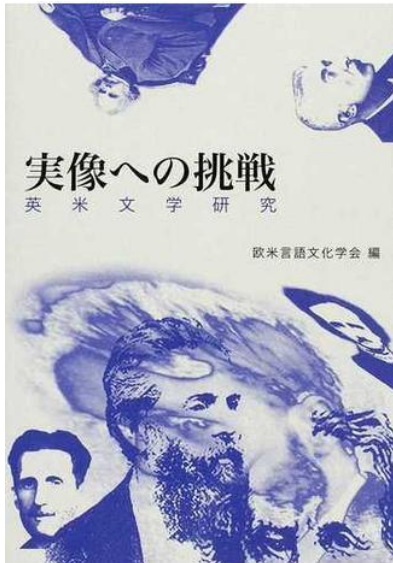
あとがき 中垣 恒太郎

年表／索引／編者・執筆者紹介



# 『実像への挑戦—英米文学研究—』 (2009)

欧米言語文化学会 編 (音羽書房鶴見書店 2009年6月刊 A5判 260頁)



本体価格 2,500 円 ISBN978-4-7553-0246-6

『ふぉーちゅん』同人として発足した研究会 20 周年を記念する論集。

## 巻頭言

英文学断想 出口 保夫

島田謹二とフランス派英文学 井内 雄四郎

## 論文

- 1 王党派詩人としての役割—ロバート・ヘリックのアングリカニズム 古河 美喜子
- 2 E. A. ポーの「アモンティラードの酒樽」を恐怖小説として読む 堀切 大史
- 3 トンモとは何者か—『タイピー』における自己の再構築 高橋 愛
- 4 ナサニエル・ホーソーンの『緋文字』における〈フェア・マン〉と身体表象 内堀 奈保子
- 5 『ブライズデイル・ロマンス』における生と死—ホーソーンのロマンスの核心に迫る  
西山 里枝
- 6 『二都物語』—歴史的テーマと個人の生と死 吉田 一穂
- 7 『我らが共通の友』における相互関係の再生 水野 隆之
- 8 ジョン・アッシュワースによる民衆教育の試み—日曜学校についてのケース・スタディ  
閑田 朋子
- 9 接合／分節と蒐集の力学—ヘンリー・ジェームズの『黄金の盃』論 中村 善雄
- 10 ハーンの「雪女」ができるまで—夢の中の母 横山 孝一
- 11 ジョイスの「円熟」—青春と老い 松山 博樹

- 12 ジェイムズ・ジョイスと絵画—モダニズムの認識論的考察 木ノ内 敏久
- 13 孤独と無常の悲しみ—マンズフィールドの「カナリア」について 奥井 裕
- 14 森のロレンス—『チャタレー夫人の恋人』の性とエコロジー 植月 恵一郎
- 15 『1984年』—ウィンストンの敗北の意義 近藤 直樹

あとがき 植月 恵一郎

索引

執筆者紹介

## 『英米文学の原風景—起点に立つ作家たち—』 (1999)

新生言語文化研究会 編 (音羽書房鶴見書店 1999年12月刊 A5判 280頁)



本体価格 2,500 円 ISBN4-7553-0213-7

「新生言語文化研究会」創立 10 周年を記念して編まれた論集。16 編を収める。

10 周年に寄せて 出口 保夫

まえがき 植月 恵一郎

### イギリス文学論文

民族詩人への道—学生ミルトンと母国語 大西 章夫

マーヴェルの純潔—政治的潔白を求めて「庭」を出発するまで 江藤 あさじ

トマス・チャタンの武勲詩—「ヘイスティングスの戦い」について 植月 恵一郎

ブレイクの原点—「痛む」身体の見 遠藤 徹

青年ワーズワスの記念碑としての「イチイの木」 小林 英美

「クリスタベル」に描かれた「原罪」 直原 典子

「願望されたもの」へ向かって—出発点としての『ジェイン・エア』 杉村 寛子

『ダロウェイ夫人』における帝国主義のイデオロギー 榊原 理枝子

「菊の香り」についての一考察—ロレンス文学の薄明 宮瀬 順子

『息子と恋人』研究 池田 史彦

ジョージ・オーウェル論—社会主義の原点 奥井 裕

出発点に立つ作家、アーヴィン・ウェルシュ 横田 由起子

## アメリカ文学論文

『大理石の牧神』に見るホーソーン的美術の見方 小松 良江

若きスタインベック 山内 圭

ヘンリー・ミラーの超現実的テキストにおける音の連想 松田 憲次郎

J.D.サリンジャーの謎を解く 横山 孝一

あとがき 大西 章夫